

令和5年度第1回大分市行政評価・行政改革推進委員会

1. 日時 令和5年8月3日(木) 10:00~12:00

2. 場所 大分市役所8階 大会議室

3. 出席者

○大分市評価・行政改革推進委員会委員

委員長	渡邊 博子	委員	河部 明美
副委員長	石井 公二郎	委員	佐野 真紀子
委員	小野 裕佳	委員	利光 吉広
委員	小澤 朋之	委員	高橋 潤一
委員	山城 興介	委員	得丸 定子
委員	甲斐 優子	委員	張 凱勛
委員	佐藤 宝恵		(欠席1名)

○出席職員

大分市長	足立 信也	環境部長	糸長 隆
総務部長	永松 薫	商工労働観光部長	三好 正昭
企画部長	吉良 昌昭	上下水道部次長	衛藤 興憲
企画部審議監	井原 正文	教育部長	高田 隆秀
企画部審議監	正池 功	総務部人事課長	山口 大輔
財務部長	三重野 尚子	企画部企画課長	藤田 泰次郎
財務部審議監	川野 洋史	企画部情報政策課長	渡辺 英二
市民部長	中園 美佐	財務部財政課長	幸 紀宏
福祉保健部長	斉藤 修造		

○事務局

行政改革推進室室長	谷矢 啓良
行政改革推進室主査	波多野 邦広
行政改革推進室主査	伊藤 雅記
行政改革推進室主任	三苫 里奈

4. 次第 (1) 市長挨拶

(2) 開会

(3) 議題 ①「大分市行政改革推進プラン」の令和4年度実績及び令和5年度計画の報告について

②窓口スマート化の取組について

③令和4年度財政収支の中期見通し

④行政評価制度の見直しについて

(4) 閉会

企画部審議監	<p>おはようございます。</p> <p>定刻になりましたので始めたいと思います。それでは、大分市行政評価・行政改革推進委員会委員の委嘱状交付を行います。今回委嘱いたします委員は14名であります。代表して委員長に指名させていただきました、渡邊博子様へ委嘱状を交付いたします。足立市長、渡邊様は中央へお進みください。他の委員の皆様、職員は、恐れ入りますが、その場にご起立ください。</p>
足立市長	<p>委嘱状。渡邊博子殿。大分市行政評価・行政改革推進委員会委員を委嘱します。委嘱期間は令和5年8月3日から令和9年3月31日までとします。令和5年8月3日大分市長 足立 信也。</p>
渡邊委員	<p>よろしくお願いいたします。謹んでお受けいたします。</p>
企画部審議監	<p>よろしくお願いいたします。足立市長、渡邊委員長はお席の方へお戻りください。他の委員の皆様、職員はご着席ください。委嘱状につきましては、それぞれの席の方に置かせていただいておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それではここで大分市長の足立信也よりご挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>皆様、改めましておはようございます。大分市長足立信也でございます。今、渡邊博子委員長をはじめ、皆様方に委嘱をさせていただきました。任期はそれほど長くはないですが、集中した審議になると思っております。この度は、お引き受けくださりまして本当にありがとうございます。</p> <p>さて、今年度からスタートしました大分市の行政改革推進プラン。この中の五つのテーマごとにしっかり議論していただくということになりますが、私の方の考えとしては、行政評価、それから、行政改革を一体として見なければならぬ、これはもちろんのことでございます。市には</p>

	<p>19の政策と42の施策、1500の事業がございます。職員1人当たりで考えても相当な数だと思っております。中には、戦後、非常に食糧難で大変な時期から始まったものもあれば、そのあとの高度経済成長期に作られ始められたものもあれば、またバブルの頃の世代の時に作られたものもございます。そして、20世紀の終わりから21世紀の初頭にかけては、金融破綻や世の中が厳しい中で、また就職氷河期に直面した方々の存在もございます。そして東日本大震災、今回の新型コロナウイルス感染症、我々は、様々なことを経験して参りましたが、そこから得られたもの、例えばコロナでいいますと、テレワークやリモートワークの推進がございます。</p> <p>それから、もう一つ大事なことは、地球温暖化がこれほど大きな災害、台風を招いているということです。こういったことを、行政評価・行政改革の中で、簡単に言うとSDGsに繋がるような改革をしなければならぬ時期に来ていると思えますし、横串を刺す話で申しますと、若い方がなかなか政治参加してくださらないということがあって、それはやはり紙文化から離れていることが要因と思われまます。例えば、市民の意識調査の封書が届いても、それを開かない若者も結構多いです。そのような形で、市民、住民の意識が本当に反映されているのだろうか。この意識調査のやり方についても、やはり時代に即した、むしろネット環境も、パソコンよりもスマホの時代になってきているわけです。そのようなものを活用しながら、市民の意識をしっかりと取り込んで、そして目標に向かって、持続可能なこの地球社会を作らなければいけませんので、大分市がその先頭に立ってやっていきたいと思えます。</p> <p>今日は第1回でございますので、昨年度の実績の報告とそれから5年度の計画、事業内容という話になると思えます。私は残念ながら冒頭のみで退席させていただきますが、率直な、そしてまた、忌憚のないご意見をどうか交わしていただきたいと思えます。</p> <p>時代は明らかに変わっているのに、変わっていけないものはどこにあるのか。私はやはり古くから綿々と繋がっている、行政がその象徴的な存在であろうと思っておりますので、類似した事業、あるいは時代が変わったがそこについてきていない事業というようなことも含めて見直し、そして改革につなげていく、ぜひそのことをお願いしたいと思えます。皆様方色々な立場の方がいらっしゃり、一人一人がしっかりとご意見を持たれていると私は思えますので、そのことを出し合って、そして結論を一つに導いていていただきたい、そのことを重ねてお願い申し上げます。どうかよろしく申し上げます。</p>
--	---

<p>企画部審議監</p>	<p>ありがとうございました。これより委員の皆様のご紹介をさせていただきます。お名前を読み上げますので、呼ばれた方はご起立・一礼ののち、ご着席願います。委員長の渡邊博子様、副委員長の石井公二郎様、小野裕佳様、小澤朋之様、山城興介様、甲斐優子様、佐藤宝恵様、河部明美様、佐野真紀子様、利光吉広様、高橋潤一様、得丸定子様、張凱勳様。なお、大塚浩様におかれましては、所用により欠席されております。</p> <p>それではここで渡邊委員長にご挨拶をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>皆様よろしく願いいたします、改めまして渡邊でございます。令和5年度大分市行政評価・行政改革推進委員会が発足をされました。本当に僭越ではございますが、その委員会の委員長ということで、今回その重責を担わせていただくことになりました。この度、委員の皆様のお力・ご協力を元に業務を全うさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いを申し上げます。</p> <p>それでは、委員会の委員の皆様を代表いたしまして一言ごあいさつをさせていただきます。</p> <p>まずは足立市長様をはじめ、各部署の長の方々本当にお忙しい中にもかかわらず、お集りいただきありがとうございます。この会議の目的は、行政の評価とともに行政改革を推進していくという2本柱です。事前の説明でもいただきましたように、まず効率的、効果的な行政運営に関して皆様方のご意見をいただきます。それから行政改革にかかりましては、やはりこれからの若い人たちが大分市にずっと住み続け、そして働き続けてくれる。また、子供たちが生き生きと活動ができるような社会に向かって、あるいはそういう社会の礎を築いていけるような、そのような会議ができればと思っております。先ほどのお話にもありましたが、伝統を守りながら、そして革新を行っていくという非常に難しい課題ではあります。また、財政状況が、今まで以上に良くなるということが、なかなか期待ができない中、そして取り巻く環境が様々に変わっていく中で、いかに本当に新しい社会を、そして期待の持てる明るい社会を作っていけるか、そこを元にしながらか議論していきたいと思います。委員の皆様におかれましてはそれぞれの立場からのご意見、そして何よりも、市民目線という、皆様の暮らしやお仕事の中からのご意見、お考えを出していただければと思いますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それから最後になりましたがこの会議の運営にあたりましては、事務</p>

<p>企画部審議監</p>	<p>局の皆様には、色々な状況の取りまとめ、資料の作成、そして委員の皆様へのご説明、それから庁内の調整など、本当にお手数お掛けいたしました。この会が成果をもって、終わることができるよう、そして、新たな社会を築いていけるように、何とか頑張っていきたいと思います。本当にどうもありがとうございます。</p> <p>第1回目がこれから始まりますが、どうぞ皆様よろしく願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。これをもちまして委嘱状の交付を終了いたします。市長は次の用務がありますので、ここで退席させていただきます。</p> <p>続きまして議事に入ります前に、本日出席しております大分市職員の自己紹介をさせていただきます。</p> <p>(出席職員による自己紹介)</p>
<p>企画部審議監</p>	<p>それではただいまより、令和5年度第1回大分市行政評価・行政改革推進委員会を開会いたします。委員会設置要綱第6条の規定に基づき、渡邊委員長に議長をお願いいたしたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>それでは改めまして、渡邊でございます。委員の皆様におかれましては本当にご多忙のところご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。</p> <p>会議の開催にあたりまして、まず、委員の皆様を確認をさせていただきます。会議の公開についてでございます。大分市では審議会等の会議は公開に努めることとしております。本日の会議は特に非公開とするべき内容ございませんので、公開といたしたいと思いますが、いかがでございましょうか。公開でよろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>(異議なし)</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。また併せまして、本日の会議の議事録につきましては、市のホームページ等で公開をするということになっておりますが、それでよろしいでしょうか。</p>

委員	(異議なし)
渡邊委員長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、会議及び議事録に関しましては公開ということで行いたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日の議題は、大分市行政改革推進プランの令和4年度実績及び令和5年度計画についてでございます。大分市の行政改革の推進に関しまして、市民目線で議論を展開して参りたいと思いますので、どうか活発なご発言をよろしく願いいたします。</p> <p>それではお手元の次第に沿って議事を進めて参ります。まず、議題の1でございますが、大分市行政改革推進プランの令和4年度実績及び令和5年度計画につきまして、あわせて関連がありますので、議題の2窓口スマート化の取組について、事務局からのご説明をお願いいたします。</p>
行政改革推進室長	<p>行政改革推進室の谷矢でございます。本日は暑い中ありがとうございます。よろしく願いします。着座にてご説明させていただきます。</p> <p>まず、初めに紙では青色と緑色のA3横の資料になります。はじめに青い資料の方から説明させていただきます。</p> <p>行政改革推進プラン2018の取組項目のうち、令和4年度の主な実績についてご説明させていただきたいと思っています。行政改革推進プラン2018につきましては、平成30年度から令和4年度までの5年間の計画でございまして、令和4年度が最終年度となっております。行政改革推進プランの取組項目のうち主なものをご説明させていただきたいと思っています。</p> <p>最初に、1番目の市民満足と利便性のさらなる向上のうち、取組項目3、上から3番目の市民ニーズに対応した質の高い行政サービスの提供のうち、赤字の3の取組でありますけれども、商業施設等でマイナンバーカードの出張申請サポートを193回実施しまして、1万2099人をサポートしたところでございます。また、大分オーパ内に開設をしておりましたマイナンバーカードセンターにつきましては、土日のマイナンバーカード受け取り等に対しまして対応してきたところでございます。</p> <p>次に大きい項目の2の多様な主体との連携による活力の創造のうち、取組項目5、連携による人づくり地域づくりの取組の2番目ですが、地域の協力企業等を対象に行方不明になった高齢者の早期発見を目的とする「大分あんしんみまもりネットワーク連絡会議」を開催し、ネットワ</p>

ークの強化等を図ったところでございます。次に取組項目6の多様な主体との連携・協働にございますが、九州電力株式会社大分支店及び大分県信用組合さんとカーボンニュートラル等に係る包括連携協定を締結したところでございます。

次に大きい項目3の安定的な行財政基盤の強化のうち、取組項目7の業務手法等の見直しの取組につきまして、小学校の給食調理業務等の民間委託について、新たに1校導入し、合計で20校となったところでございます。

次に右に移りまして4の合理的・効率的な事業手法による行政運営のうち、取組項目11の効率的な手法による財源の確保ですが、ふるさと納税について、「ふるさとプレミアム」「ANAのふるさと納税」に掲載をし、PRの強化を図り、寄附件数、寄附額の増加に繋がったところでございます。次に取組項目12の民間活力の積極的活用の取組ですが、PFI事業にて市内の小中学校の普通教室に空調設置したことで、年間3700万円のコストを削減し、また、金池小学校の施設整備をPFI事業にて実施したことで、年間約400万円のコストを削減したところでございます。

次に大きい項目5の職員の意識改革と組織体制の強化のうち、取組項目14の職員の能力向上と意識改革の取組で、大分市職員活躍推進プランに基づきまして、女性職員を幹部職員として積極的に登用し、課長級20.2%、課長補佐級が26.6%、係長級35.3%となったところでございます。令和4年度の主な実績については以上でございます。

令和4年度の効果額につきましてはふるさと納税制度の活用、それから公有財産の有効活用などで、約23億円となったところでございます。

行政改革推進プラン2018の総括といたしましては、75億円の目標額に対しまして約100億円の効果額を達成しており、また、効果額以外の成果としましてはマイナンバーカードの普及促進や、住民票等のコンビニ交付サービスなど、一定の成果を上げることができたものと考えております。2018のプランの実績につきましては以上でございます。

次に2枚目の緑色の資料になります。行政改革推進プラン第6次の令和5年度の主な取組内容につきましてご説明をいたします。

行政改革推進プラン第6次につきましては、令和5年度から令和9年度までの5年間の計画となっております。今年度が初年度の取組ということになってございます。新プランでは、行政改革の取組による改善効果額の目標額として年間約10億円を掲げておりますほか、手続きの

	<p>オンライン化の進捗率や、財政運営の健全性などを指標の評価の視点としております。主な取組内容につきまして順番にご説明させていただきます。</p> <p>まず1の一番上の総合的なマネジメント改革のうち、行政運営全般に関わるマネジメント手法の改善の市民参画・市民提案の手法の充実の取組として、総合計画の策定に当たり、若者の意見を反映させるため若者のワークショップを開催することとしております。</p> <p>次に2つ目の取組の利用者目線でのサービス向上のうち、窓口サービス改革の推進の書かない窓口の導入促進の取組として、大分市窓口スマート化推進会議を設置し、書かない窓口に係る業務改革等について検討することとしております。</p> <p>次に3番目、持続可能な行財政運営のうち、職員の働きやすさ・働きがいの向上の業務フローの見直しに伴う執務環境の改善の取組として、令和6年4月稼働に向けた財務会計システムの改修等によりペーパーレス化及び業務効率の向上を図ることとしております。</p> <p>次に4番目の新たなニーズやリスクの対応のうち、危機管理のマネジメント強化の大規模災害等への対応力の強化の取組として、荷揚町小学校跡地複合公共施設に常設の災害対策本部室を整備し、災害対応能力を強化することとしております。</p> <p>最後に5番目、未来を創造する経営財源の確保のうち、歳出の改革の事務事業の整理・合理化の強化の取組として、行政評価制度の再構築により事務事業評価の精度を高めるとともに、類似事業を統合するなど、事務事業の整理・合理化を進めることとしております。取組内容につきましては以上でございます。</p> <p>では、続きまして、窓口サービス改革についてのご説明に入らせていただきますと思います。資料はA4の横の資料になってございます。</p> <p>まず1番目の推進体制についてでございますが、大分市窓口スマート化推進会議を5月に設置をしまして、現在検討部会、作業チームにおいて検討を進めているところでございます。</p> <p>2の「書かないワンストップ窓口」の実施イメージをご覧ください。例としまして転入の場合ですと従来、現在の運用では、市民課、国保年金課、長寿福祉課、子育て支援課、障害福祉課など、それぞれ手続きが必要となる場合がございますが、実施後におきましては、届出申請窓口を1ヶ所でまとめて受け付けをし、たくさんの申請書を書かずに済むようにできればという風に考えております。</p> <p>3の「書かないワンストップ窓口」実現に向けたフローとしまして、</p>
--	--

	<p>書かない・回らない・待たないの実現に向けて、申請書の出力方法の検討、あるいは受付代行の検討、申請手続きにおけるナビゲーション機能の検討などを行いまして、実現可能なものから順に実施をし、並行して本市に最適なシステムの導入を検討して参りたいと考えております。</p> <p>なお、行政手続きのオンライン化につきましても同時に進めているところをございまして、窓口に行かなくても、自宅や外出先などから、いつでもどこからでも利用可能となるサービスも進めているところをございます。説明は以上をございます。</p>
渡邊委員	<p>どうもありがとうございました。以上のご説明を受けまして、皆様方からのご質問やご意見はございませんでしょうか。どこからでも結構ですので何かございましたらお願いいたします。小澤委員お願いいたします。</p>
小澤委員	<p>委員の小澤です。ご説明ありがとうございます。実績と計画の件で、意見と質問ですが、事前に意見を言っていたのですが、例えば実績のところの効果額が23億、あるいは累積を抜いた14億とあった時に、各々の効果額の内訳はどのようなものかというのがわかると、多分定性だけじゃなくて、その数字のことがわかっていいかなと思います。結局23億や14億の内訳が一部は載っていますが、個々の内訳があるとわかりやすいのかなと思ました。今、回答してくださいっていうのを求めはしませんし、必要であれば言っていた方がいいと思います。実績を把握しているからこそ、令和5年度の目標の10億円というのをどういう風に積み上げるのかがわかるのではないのでしょうか。評価委員としては、内訳の分からない10億円に対してなかなか評価しづらいと思います。過去の実績の内訳から今回の10億の内訳の積み上げ方法や将来の割り振りを示すとよりイメージがしやすいかなと思ました。以上です。</p>
渡邊委員長	<p>どうもありがとうございます。それではご回答をお願いいたします。</p>
行政改革推進室長	<p>令和4年度実績につきましては、詳細の提示ができておらず申し訳ありませんでした。令和5年度の評価の際に内訳を皆さんにご覧いただけるような工夫をして参りたいと思っております。</p> <p>10億円の内訳ということでございますけれども、目標額として設定したものでございまして、今後基金の取り崩しで40億円の不足が見込まれる中で、年間の目標額として定めたものでございます。これまで効</p>

	<p>果額を出しているものにつきましても今回お示ししていない取組もございましたが、継続した取組の中でも効果額を生み出して参りたいと思っておりますので、また評価の際にご確認いただければと考えております。ありがとうございます。</p>
渡邊委員長	<p>よろしいですか。ありがとうございます。事前のご質問・ご意見についてのご提示はどうされますか。事前のご質問・ご意見は何かございましたか。</p>
行政改革推進室長	<p>一部委員さんよりいただいておりますが、この場で再度ご質問いただいても構いませんし、流れの中でご発言いただければと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。</p>
渡邊委員長	<p>それに対するご回答は特にご用意はしていないということでしょうか。</p>
行政改革推進室長	<p>今日この場でご質問があれば、ご回答を差し上げて参りたいと思っております。</p>
渡邊委員長	<p>ありがとうございます。今日は大まかな柱というかその大きな流れというところで、委員の皆様にご覧いただくということでよろしいですね。そうしますと詳細は次回以降ということで、よろしくお願いいたします。ほかにはいかがでしょう。佐野委員よろしくお願いいたします。</p>
佐野委員	<p>昨年度の実績の2ポツに、例えばなんですが、多様な主体との連携・協働というのがございます。ここでカーボンニュートラルの包括連携協定を結びましたということが実績として出ていますけども、おそらくこの先のことのほうがむしろ重要であって、その部分が今後どういう風に繋がっていくのか、年度をまたいで何らかの効果が出るものについて今回の令和5年度の主な取組の中でこの先どういう風に進んでいくのか、具体的にどういうところで行革だったり、市民サービスだったり、市全体の活性化に繋がっていくのかというのが見えるようにしてくれると分かりやすいのかなと思います。今は実績の部分と今年度の計画の項目の部分と全く違っており、それが若干分かりにくいと思いました。</p>
行政改革推進室長	<p>はい。プランの切れ目で2018の終了年度と新プランのスタートの</p>

佐野委員	<p>タイミングで繋がりがちょっと見えにくい部分があったかと思います。少し重なりますけれども、実績をお示しする際に佐野委員さんのお話のように、アクションの記載だけで終わらないように、そのあとの成果、アウトカムがどうなったかっていう実績の見せ方を今後工夫させていただきたいと思っております。</p> <p>ありがとうございます。よろしく申し上げます。もう1件よろしいでしょうか。</p> <p>窓口のスマート化ですとか、オンライン化、デジタル化で、市民サービスが向上するというは大変意義があることと思っておりますが、それにより、職員の業務負担が増えてしまって業務効率化が悪化しては行革の意味がないと思っております。ですので、市民サービスの向上というのが大分市さんの役割なのかもしれませんが、同時にやはり職員の業務効率化、双方とも改善できるようなデジタル化を進めていただければと思っております。実際システムの改修だとかございますけれども、そこが過度な職員の業務負担にならないような形で双方向にらみながら進めていっていただきたいと思っております。</p>
渡邊委員長	<p>ありがとうございます。ご回答をお願いいたします。</p>
行政改革推進室長	<p>はい。ありがとうございます。まさにデジタル庁の方からもそういった視点が示されておりまして、先進市でも、市民に優しく、それから職員に優しくというテーマで、職員にとっても使いやすく、業務負担が減るような取組に配慮しながら、どちらにも貢献できるような形で進めていければと考えております。</p>
渡邊委員長	<p>よろしいでしょうか。ありがとうございます。それではほかにはいかがでしょう。利光委員からお願いいたします。</p>
利光委員	<p>労働者の代表という形で連合大分から選出をいただいております。全く同意見で改革の必要性はもう十分理解ができますし、ぜひ断行していただきたいです。官民間わず、やはりワークライフバランスという言葉もございます。ワークライフバランスという言葉が生まれて実は15年という状況ですが、この言葉を全員でしっかりとかみしめながら労使間わず進めていただければというのがまず1点でございます。</p> <p>具体的に一つご提案というか意見としてご発言させていただきたいん</p>

	<p>ですが、窓口のスマート化、非常に大事なことですけれども、今の高齢化が非常に進行している中で、おそらく市民の皆様方の目線として、行政の制度というのがすごく複雑で、難しいものが多いのではないかなという風に思います。例えば、何らかの軽減措置、また、減免措置、色々な申請制度というのが、日本の文化として定着をしているんだなという風に考えております。大分市単独でこれを改革していくというのは難しいのは十分理解した上での発言になるんですけども、今後の長いスパンで考えていった時に、申請をする制度というのはやはり、特に高齢者の方にとってみれば、その制度を熟知しないと、その申請も行えないという状態になるんであると思うています。これからの時代を考えたときに日本全体として改革をして、申請ではなく、制度として完成をさせてしまい、減免とか軽減の申請措置自体を行う必要がなくなれば、おそらく職員さんの負担も減ると思いますし、市民のそれぞれの皆さんの申請の手間という部分も軽減されるので、かなりスマートになってくると思っています。諸外国と比べて日本も非常にその申請の制度が多いという現状がありますので、足元の変えられるところから気を付けていただくというのも今後の視点として一つ重要になってくるのかなと思いましたが、発言をさせていただきました。長い目で見た目標ということで、ぜひとらえていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>ありがとうございます。ご回答をお願いいたします。</p>
<p>行政改革推進室長</p>	<p>1点目のですねワークライフバランスにつきましては2019年度から大分市職員働き方改革推進プログラムを策定しておりまして、それに基づいて取組を進めているところでございます。行政改革の方でも業務効率化も含めて取組を進めていきたいと思っております。申請のお話については窓口のスマート化にも関連しますが、ナビゲーションの複雑さ、申請書がたくさんあり市民にとってみればまず何を申請しなければいけないか、どの申請書を使わなければいけないかなど、そこで困りが生じているといった課題があるかと思えます。そういった申請の複雑さもありますし、職員側にとってもそれを説明する職員のスキルが求められますので、そういったところの継承、要はベテランの職員とのつなぎの部分も課題にはなっているかなと思っています。窓口のスマート化を進める上でもそういったナビゲーション機能の充実を図って、市民にとっても職員にとっても、その課題が解消されるような動きにできればという風に考えております。</p>

渡邊委員長	<p>ありがとうございます。得丸委員お願いいたします。</p>
得丸委員	<p>市民レベルから些細なことですが、第6次のことについて項目だけで、詳細のことが見えないので教えていただければと思いますが、2点あります。</p> <p>まず1の方の市民参画・市民提案手法の充実ということですが、若者に焦点を当てることは非常に重要です。一方その対極にある高齢者への着目というのも大事じゃないかと思います。例えば、高齢者と教育ということを考えてときに、諸外国では小学校の教室の後ろにおじいちゃんおばあちゃんがいて、ただ授業中も座っているだけなんですけど、遊ぶ時間に子どもたちもおじいちゃんおばあちゃんと話す、先生には聞きにくいことをおじいちゃんおばあちゃんに聞く。私は長く県外に居て母の介護のために大分へ帰ってきたのですが、上越市のほうではそれに似たような制度があります。そういう意味で、第6次の取組の中で、高齢者が子供たちの見守りっていう感じで教室の中に入っていくという方向を考えられるのかなと。</p> <p>2点目が、4番目の危機管理のマネジメント強化というところですが、先ほど私、介護で帰ってきたと言ったんですが、母が要介護5になった際に台風がきて避難してくださいと言われてのに避難ができませんでした。近隣の人は親切ですけども、避難所に行っても、大変でしょうし、今は事前に申請すれば良いという制度が当時と比べてできているようですが。それで台風の後母が手術した病院の先生から電話があって、僕の病院に来るように電話すればよかったのと言ってくれました。そういう意味で、高齢者の避難の時に病院とか、施設は手一杯だと思いますけれども、そういう意味の危機管理の協体制っていうのは考えていられるのかなと。考えていると思いますけれども身近な困ったことが起こりましたので。そこで、大分市の高齢者の災害時の避難の対応について教えてもらってもいいでしょうか。</p>
渡邊委員長	<p>ありがとうございます。今のご意見に対しましてご回答をお願いいたします。まずは高齢者と教育の部分、それから危機管理の災害のところについてご回答をお願いします。</p>
教育部長	<p>現在、大分市では高齢者の方々においては色々な伝統的な文化や遊びの講師等をしていただきながら学習を行っているところでございます。</p>

	<p>また、一方で学校運営協議会において、学校の運営に保護者であったり、地域住民の方に参画していただいて、いろんな運営に関わっていただいております。もう1点地域のコーディネーターということで、地域の方々と学校についていろんな橋渡しをしていただくということも行っております。そういったことを含めまして、高齢者の様々な知識であったり、経験という部分を、生かしながら、今後もそういった部分を大事にしながら、未来を担う子供たちへの教育を進めていきたいと思っております。貴重な意見ありがとうございました。</p>
得丸委員	<p>教えるという立場ではなく、教室の中に入って子どもたちと一緒に授業を受ける立場、市の臨時職員という立場になってしまうと思うのですが、そういった立場を与えるということは考えているのでしょうか。</p>
教育部長	<p>継続的に行っていく場合には雇用という部分をどうするのか、あるいはボランティアとしてどうお願いするのかという部分を含めて考える必要が出てきます。ただ、一般的に高齢者の方々にあまり多くの負担を強いることは難しいのではないかと考えておりますので、そのあたりのニーズや高齢者の方の希望をお聞きしながら今後検討していきたいと考えております。</p>
渡邊委員長	<p>世代間交流というご指摘もありますのでよろしく願いいたします。</p>
福祉保健部長	<p>福祉保健部長の斉藤でございます。2点目の避難の関係なんですけど、今の高齢者とか障がい者とか、いわゆる避難行動要支援者という対象が市内で1万8000人ぐらいいらっしゃいます。さらにその中で、自力避難が可能な方、施設に入っている方を除いた避難行動要支援者というのが大体7800人ぐらいいまして、その方の中で地域への情報提供に同意した方に対しては、どういう形で避難をしますかとかそういう避難行動要支援者の個別避難計画を作成しています。現在、福祉避難所というのが市内に現段階で71ヶ所あります。もし災害が起こった場合は、通常大分市には一次避難所が市内に100何ヶ所あるんですけども、一次避難所に一旦避難してもらい、長期になった際は福祉避難所に避難してもらおうという流れになるんですが、一次避難所に避難できない方は、直接福祉避難所に避難するといったケースもあり得ます。ただ、福祉避難所に限っては災害の規模とかによって何人受け入れができるとかいう人数が違うため、なるべく早めに行政の方に連絡していただくなどご相</p>

渡邊委員長	<p>談していただければというふうに思っております。以上です。</p> <p>やはりそういうあるサービスが、外部から戻られた方などにきちっと伝わるような仕組みがしっかりでき上がるといいですね。ありがとうございました。</p>
張委員	<p>私も市民の角度で質問が二つございまして、一つ目は大分市の市民の意識調査の部分ですが、有効回収率が30何%とあります。市長が先ほど指摘いたしましたように若者をはじめ、市民の意見を反映できているのかという点です。市民意識調査において、市民が調査項目に対して、どれだけ課題や問題を意識して回答しているかどうかは難しい点だと思えますが、市民意識調査を含めた市の政策についてのアンケート調査の取組について教えていただけたらと思います。</p> <p>もう一つは先ほどの災害対策本部のところにもちょっと繋がるんですけども、文献を読んだことがございまして、阪神の淡路大震災以降に、結構支援側の支援力っていうところが意識されているんですけども、東日本大震災のあとでは、いわゆる例えば外国が救助しに来たときにも、その地域の住民側としての住民力のところで意識をされているかどうかという論文を読んだことがございまして、ここの取組はどうされているかというところをちょっと教えていただけたらと思っております。</p>
渡邊委員長	<p>ありがとうございます。今の二つの質問なのですが、市民の意識調査のところとそのニーズの把握、新しいサービスへの結びつけというのはいかがですか。ご回答をお願いいたします。</p>
行政改革推進室長	<p>1点目の市民意識調査に関するご質問でございますが、現在、年に1度市民意識調査をさせていただいております。施策の満足度ですとか、重要度につきまして、伺っているところでございます。また、その市民意識調査の中で、必要に応じて、個別に項目を設けて調査をしているところでございます。また、個々の施策レベルのアンケートにつきましては、市民意識調査以外でも行っているところでございまして、例えばその計画の策定や見直しのタイミングでもアンケート調査をかけておりますので、具体的な課題に対しまして、個別に意識調査をさせてもらっているという状況でございます。</p>
福祉保健部長	<p>2点目の災害が起こった場合の外国からの受援者の体制はということ</p>

<p>渡邊委員長</p>	<p>についてですが、最近大分市内では幸いにも、外国から受援を受けるような大きな災害は起きていないですが毎年小さい災害等があります。</p> <p>本市では、災害時に社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置いたしまして、支援を受ける側、支援をする側を調整しながら災害復旧に向けた体制を整備しているという状況でございます。</p> <p>ありがとうございます。ここでいったん一つ目の項目を終了させていただきます。また、最後時間があつた際には振り返って、お話をいただければと思いますが、委員の皆様方から貴重なご意見がありました。これまでの取組の具体的な指標でありましたとおり、これまでの取組とこれからの取組の繋ぎの部分を確認にしてくださいということと、働き方を変えることと市民サービスの向上の部分の繋がり、それから窓口スマート化と申請制度との繋がり、そして高齢者を中心とした教育や災害対応のところ、意識調査などの項目に関するご意見が出ました。まだまだたくさんあるかと思いますが、また個別に何かあつたときにはということをお願いできればということと、今日のこの意見を通じて、ぜひ反映をしていただければと思います。</p> <p>続きまして、二つ目の議題、令和4年度財政収支の中期見通しにつきまして、事務局からご説明をお願い申し上げます。</p>
<p>財政課長</p>	<p>財政課長の幸でございます。私の方からは議題3、令和4年度の財政収支の中期見通しについて説明させていただきます。恐れ入りますが、着座にて説明させていただきます。ペーパーでは右上に資料②とされております財政収支の中期見通しと書かれた資料をご覧ください。</p> <p>これは社会経済情勢の変化や国の制度改正等による影響を反映させながら、例年10月に策定し、公表しているもので、こちらは昨年10月に公表したものであります。従いまして、現在大分市監査委員において審査中である、令和4年度決算などは反映されておりませんが、今後の財政収支の大まかな動きとして、ご認識いただければというふうに思っております。</p> <p>2ページの方になりますが、試算の前提条件を記載しております。市税の2段落目に記載しております通り、新型コロナの影響は令和5年度までとし、令和6年度以降は加味しないこととしております。</p> <p>それでは3ページをご覧ください。歳入についてご説明いたします。歳入のうち、市税につきましては、令和4年度見込み額をもとに、税制改正や固定資産税評価替え等の影響を考慮し試算しております。令和5</p>

	<p>年度における市税は、実績や総務省の試算を参考にし、伸びを見込んでおります。具体的に申し上げますと、固定資産税における負担軽減措置の終了や新增築の増に加え、個人市民税や法人市民税の伸びなどにより、対前年度11億円の増としております。また、令和6年度には、固定資産税の評価替え等により、対前年度9億円の減となりますが、それ以降は緩やかな増収を見込んでおります。</p> <p>次の地方交付税につきましては、令和4年度見込み額をもとに、市税等の影響を見込んで推計しております。具体的には、市税等の収入が増えると減額となり、逆に収入が減ると、増額となります。なお、令和5年度につきましては、市税等の増収が見込まれておりますことから、これに連動して、地方交付税が減額となっております。</p> <p>次の国県支出金につきましては、主に歳出側における義務的経費の扶助費や投資的経費、その他経費の国民健康保険特別会計の繰出金などに連動しており、令和7年度までは、新型コロナウイルス感染症対策事業や物価高騰対策の事業費の減に伴い、減少傾向となっておりますが、令和8年度は新環境センター整備事業に伴い、増加となっております。</p> <p>次の市債は主に投資的経費の充当財源として、現行の対象事業や充当率により試算するとともに、老朽化が進むインフラを含めた公共施設の維持管理更新経費に伴う特定財源としての起債額を加味しております。なお、交付税の振替となります臨時財政対策債につきましては、令和5年度発行見込み額を維持するものとして試算をしております。</p> <p>次に歳出についてですが、まず人件費は、令和4年度の人件費をもとに、今後の職員数や退職者数などを見込んで試算しております。なお、法改正により、令和5年度から定年年齢が段階的に引き上げられることとなっており、60歳に達した職員が定年年度まで均等に退職したと仮定した場合の試算としております。</p> <p>次に、扶助費につきましては、介護訓練等給付費など、障害福祉費の増額のほか、児童福祉費など、制度ごとに今後の伸び率を推計して試算をしております。</p> <p>次の公債費は、これまで借り入れた市債の償還金に、今後発行見込みの市債の償還金を加算しております。プライマリーバランスを考慮しながら、借り入れを行ってきた結果として減少傾向にございます。</p> <p>次の投資的経費は、事業規模200億円を確保することを基本として、労務単価の上昇等を加味して試算するとともに、公共施設総合管理計画に伴う、施設維持管理、更新経費などを加味しております。</p> <p>大在東小学校施設整備事業や、荷揚町小学校跡地複合公共施設整備事</p>
--	---

<p>渡邊委員長</p>	<p>業、大南地区スポーツ施設整備事業、西部海岸地区憩い交流拠点施設整備事業、これは道の駅を目指すのうららのことでもあります、などによりまして、令和5年度は対前年度で61億円の増となるほか、令和8年度は新環境センター整備事業などにより、対前年度で237億円の増となっております。</p> <p>次のその他の歳出では、介護保険など保険事業特別会計への繰出金が増加傾向であるほか、令和5年度までコロナ対策経費を加味しております。以上の条件をもとに試算した結果、表の中段にあります、収支不足の累計は、令和8年度末で40億円に達し、この収支不足を基金で対応いたしますと、令和8年度末における基金残高は92億円に減少することとなっております。</p> <p>次に、下のグラフですが、市債残高につきましては、これまでは減少傾向にありましたが、令和5年度は荷揚町小学校跡地複合公共施設整備事業等により、一旦増加し、令和8年度には新環境センター整備事業の影響により再度増加に転じ、令和8年度末の残高は1681億円になる見込みとなっております。また、実質公債比率は令和8年度末で5.1%となり、ほぼ同程度で推移する試算となっております。しかしながら、経常収支比率につきましては、令和8年度末で94.9%となり、健全エリアと言われる80%未満を大きく上回っておりますことから、財政構造は引き続き硬直化した状況が継続していく試算結果となっております。内閣府が発表した7月の月例経済報告では、景気は緩やかに回復しているとされております。しかしながら、雇用所得環境が改善するもとの、緩やかな回復が続くことが期待される一方、海外景気の下振れなどが、我が国の景気を下押しするリスクとなっており、先行き不透明な社会経済状況の中で、本市においても、市税、地方交付税ともに、推計通りの確保ができるかどうか懸念されております。また、災害発生など不測の事態への対応を考慮いたしますと、財政収支の中期見通しにつきましては、厳しい状況にあることには変わりありません。そのため、さらなるコスト意識のもと、行政改革における財政健全化への取組などを着実に実行し、これまで以上に安定した財政運営を行って参りたいと考えております。説明は以上でございます。</p> <p>はい。どうもありがとうございました。非常に数字が多くありまして、また、とても専門的な用語もありますので、難しいと思いますが、皆様方からご質問ご意見を願います。小澤委員お願いいたします。</p>
--------------	--

小澤委員	<p>委員の小澤です。どうもありがとうございます。2点ありまして事前質問の際に意見で言っています。</p> <p>一つ目が外部の人への説明文書としては具体性が足りないのではないかとこのところでは、適正かどうかを判断できるかというところについては、難しいんじゃないかなと思います。おそらくそれで口頭説明してくださったと思うんですけど、今の説明で理解して、プライマリーバランス等についての意見は言えないのではないかなと思います。ここの説明は、毎期の試算の仕方を書いているだけであって、この令和5年度とか個々の話は具体的に入っていません。もし評価の意見を聞くのであれば、多分具体的な説明がないと、委員の方は、わからないかと。各制度と今後の伸び、児童福祉、生活保護費なのか、制度ごとに今後の伸び率、例えば令和5年は何%で、既存のコロナウイルスの影響は令和5年までであるなどが書かれていると、皆さん判断しやすいのかなと思いました。それが1点目の意見です。</p> <p>2点目は、歳入と歳出は書いてくださっているんですけど、民間の発想だと収支が足りないので、基金を崩さなきゃいけないという点に触れてない。口頭発表だけっていうのは、ちょっと説明が足りないのかなと思いました。つまり、ここにやはり、口頭ではなくて文言で収支が幾ら不足します、なので、基金をこれだけ使用したいと思えますっていう説明文も記載した方が良くないかなと思いました。以上2点、私からの意見です。</p>
渡邊委員長	<p>どうもありがとうございます。いかがでしょうか。ご回答をお願いいたします。</p>
財政課長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。まず1点目につきましては、過去こういった形でこれまでも公表させていただきましたが、今回いただきましたご意見を踏まえまして、県や、また、他都市の公表内容を参考にしながら、よりわかりやすい公表に努めていきたいという風に考えております。</p> <p>2点目の収支不足に対する基金を活用するのに、どういったそれを主旨が数字としては記載すべきだというようなご意見だったかと思えますけれども、今回の公表の中でありますと、例えば令和5年度でありましたら、収支不足が一応10億円ということで試算をしたことになっております。基金を活用したいということで記載をしておるんですけどもそれを基金繰入金という、そこに10億円ということで記載はしており</p>

<p>小澤委員</p>	<p>ますが、確かに専門用語が多くて、市民にとってわかりづらいということもあろうかと思しますので、その点を踏まえましても、わかりやすい公表に努めて参りたいという風に考えております。以上でございます。</p> <p>ありがとうございます。1点目のとこなんですけど、資料にいろいろご説明を足されるということですが、当然そちらの負担が増えすぎないようにというのもあるのと、あとみんな財務書類4表の方も考えて、必要以上に増えないようにするけど、必要な情報は記載があるという風にしていただきたい。全部が増えていくとみんな不幸になるので、作る方も、その質問対応だけのための資料になりますし、読む人も多くて読めなくなるので、必要な部分をシンプルに載せられた方がいいと思います。どうもありがとうございます。</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>ありがとうございます。よろしくお願いいいたします。今の箇所ですが、かなり大事だと思います。結論としては、財政はあまりよくはならないと、財政の状況というのがこれからどういう取り巻く環境が変わるかどうかわからないですし、市税含めて入ってくる量もわからないと。だから8割ぐらいが経常収支比率の目標ですが、ずっとここは100%近くのところにきているので、これを何とか改善していき、そのためにはコストを削減するというのを、もっと強めないといけないと。ただ、一方でやっぱりお金をかけないといけないところもたくさん出てくるのでそこも見えないといけない、大まかにはそんな感じでよろしいですよ。そうした中で、あと委員の方々の知恵というか、こうしたらいいよということも、小さくても構いませんので、教えていただければと思います。入ってくるお金が少なくて、出て行くお金がたくさんあるので、何とか収支バランスを取るためにも何かやらないといけないと思います。何かいい知恵がありましたら、お願いできればと思います。</p>
<p>利光委員</p>	<p>事前に質問も送らせていただいておりますので発言をさせていただきますと思います。</p> <p>取組としては、これまでも継続して財源の確保ということは、取り組まれていると思いますので、あくまでも要望に近い発言にはなりますが、過去に私自身どこの場で伺った内容か忘れたんですが、同じ自治体の中でも、国や県から、大分市の場合は中核市なので、補助を受けられない部分が一番あるんだという話を聞いたことがあります。制度全般に当たるのかどうか、ちょっとそこまで私も詳しくはないんですが、そういつ</p>

	<p>た課題があるというのを耳にしたことがあります。佐藤前市長が現在、知事にもなられたということもございますし、大分市も新しい市長に代わられたというタイミングでございますので、そういった原点を見つめ直すきっかけにはなり得る年なのかなという風に考えています。ですので、これまでも十分議論した内容だとは思いますが、やはり歳入をふやすという観点でいった時に、そういった財源の確保の方法をぜひ県や国と調整をしていくということも、これまで通りだとは思いますが引き続きご検討いただければと思いましたので発言させていただきました。以上です。</p>
渡邊委員長	<p>ありがとうございます。事前にご意見をいただいたそうなのですが、ご回答をお願いいたします。</p>
財政課長	<p>はい。ご意見ありがとうございます。委員ご指摘の通り、歳入の確保が今後の大きな課題の一つでありますので、中核市であることで、大分市がもらえないような補助金交付金であるとか、そういったところにつきましても、要望しながら、歳入の確保に努めて参りたいというふうに考えております。以上でございます。ありがとうございます。</p>
渡邊委員長	<p>よろしいでしょうかそういう形で。他にはありませんか。河部委員お願いいたします。</p>
河部委員	<p>利光委員がおっしゃったように、佐藤前市長が県知事になられまして、新たに安心元気・未来創造・共生社会ということを掲げています。まず第1に連携ということで、市町村や、関係団体等と連携していくということを強く申しており、大分市さんと一緒にやっていけたらと思っておりますので、追加して発言させていただきました。</p>
渡邊委員長	<p>ありがとうございます。コメントということでいただきたいと思えます。では佐藤委員、お願いいたします。</p>
佐藤委員	<p>ご説明ありがとうございます。民間企業の立場から意見とお願いがあります。やはり歳入を増やすというところにおいて一番大事な一つとしては、やはりこういった大分県大分市に所在地を置く法人からの法人税が増えていくことによって、潤いが持たれるのではないかなという風に考えています。手段の一つとして、指定業者であるとか、コンペティ</p>

	<p>ションであるとか、今は業種によっては県外の事業者を採択するという傾向もまだまだ残っていると思うんですが、できるだけそういうスキルやノウハウというところの評価点もあるんですけども、大分県大分市内の企業の採択というところを積極的に進めていただきつつ、スマート化を業務されていると思いますので、実際に業務委託の費用がかかるじゃないかというところがあるんですけども、実際に職員さんたちの作業をスマート化させつつ、その捻出した金額でどんどん外注アウトソーシングをするということで生産効率も上がっていくのではないかと。同時に、県内市内の企業の法人税も税収として見込めるという風に考えておりますので、その辺り、ぜひ意識的にお願いしたいなと思っています。</p> <p>1点追加というか補足ですけども、余談かもしれませんが。チャットGPTって今、世間的に話題になっているものがあるんですけども、私も遅ればせながら使っています。チャットGPTって本当にもう無限大の可能性のあるものであって、フリーでアプリをインストールできますのですぐにできるんですけどもここで何が言いたいかというと、質問力ってすごい大事だなと思ったんです。何がどうかというとチャットGPTは生成AIですので、こちらの方から投げかけたものに対して、的確かつ人間以上のスキルと知識を持って答えてくれるというすぐれたものなんですけれども、質問する人間が、質問の内容が単調であるとか返答も単調になってきます。ただ、ここに定義づけをしっかりとって先方のニーズが何であるかっていうところや我々のご質問する側のニーズが何であるかということ、事細かく定義をすると、非常にすばらしい回答がやってくるということがあります。今後、市民サービスに含めてもそうなんですけれども、やはり市民ニーズというものが、ここにたくさん記載されてますが、ニーズを吸い上げる時の質問力です。そちら様の方のいろんなアンケート調査であるとか、ニーズの掘り起こしをする際に、どういうところが困っているのかっていうところも細分化して、それを市民に投げかけるっていうところが必要ではないかなという風に思っております。収支のトピックのところからは若干ずれたんですけどもそのような形で私の経験も含めてお伝えさせていただきます。ありがとうございました。</p>
渡邊委員長	どうもありがとうございます。ご回答をお願いいたします。
総務部長	ご意見ありがとうございます。まず、公共事業発注という観点から、

	<p>総務の方から、回答しますと、業者の選定においては、当然地場企業を優先ということが大原則でございます。全体の統計で見れば、当然地場企業も発注しているという状況でございますが、昨今例えばP F I事業やD B事業を組むような形で県外の大手企業を選定しているという事例もございますが、ある程度時間が経ってきておりますので、これは主に企画と総務の中で連携する中で、今後の事業の発注、基準についてどうするかというのは、今後検討していかなければならないと考えているところでございます。</p>
渡邊委員長	<p>よろしいですかね。ありがとうございます。</p>
情報政策課長	<p>情報政策課の渡辺です。先ほどのチャットG P Tのお話であります。まずはチャットG P Tとはというところでお話をしたいんですけども、これはインターネット上にある膨大な情報を学習をして、人間のようにならぬ会話形式でこたえるチャットサービスというものであります。現在大分市におきましては、佐藤委員さんがおっしゃるように、質問の仕方によって回答が変わってくるというところがありますので、庁内で今検証しているところであります。検証後は、利活用していくための手引きを作成して、庁内の中に広めていきたいと考えております。また、その先には市民向けのサービスの中で、先ほどおっしゃられたような意識調査だったりその質問の項目だったり、どういう形でそこが的確なものになって、使っていけるのかということについても合わせて検討していきたいと思っております。</p>
佐藤委員	<p>教えてもらった知識なんですけれどもそのチャットG P Tと人間の中に介在する代理人やネゴシエーターみたいなものを養成する講座も今、全国各地でオンラインセミナーがやられているみたいです。私も含めてなんですけど職員さんたちのスキルアップのためにそういうセミナーではどういう風にしていけばニーズのマッチングができるかとか、その辺りも教えているみたいなので、私も含めてですが、職員さんたちのスキルアップのためにそのようなセミナーをもしよろしければ、調査してみる価値もあるのではないかなと思います。</p>
情報政策課長	<p>はい。ありがとうございます。</p>
渡邊委員長	<p>どうもありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。歳入の部</p>

<p>佐野委員</p>	<p>分、歳出の部分で何かアイデアですとか、ご意見ありましたら、いかがでしょうか。</p> <p>ご説明ありがとうございました。経常収支比率を見ますと、同規模の自治体さんや全国の自治体さんで見るとなかなか上位に入れない結構厳しい状況だという話ですけれども、県内の自治体さんで見ると、大分市さん結構経常収支比率は悪くないんじゃないかって、実は思っていました。ただ、一方で、よく経常収支比率の内訳を見ると、やはり基金を取り崩しながらという部分も大きいというお話でございました。基金はやはり今後、本来あるべき水準から40億円ぐらい不足しているという話でして、やはりその積み増しも今後やっていけないといけませんし、ということは収入増ってところが、実態的に必要と思います。</p> <p>ただ、それとちょっと相反するんですけども、大分市さんだけじゃないんですけども、人口減少だとか、そういう流れの中で、定住だとか、人を増やすことはできないと思うんですけども、収入増っていう部分の中では、いかに人に住んでもらうか、来てもらうか、選ばれるまちになるかというところは、やはりしっかり考えないといけない。人に来てもらうだけじゃなく、やはりその企業さんに来てもらうっていうところも、今後しっかり施策を打っていかないといけない部分じゃないかなと思います。今までとはちょっと違う角度、他都市と大分市でここは違うんだ、ここは差別化できる、ここは独自性があるんだというようなチャームポイントをしっかり持たないといけないと思っています。財政と少し離れるかもしれませんが、そういう独自性のあるまちづくりというところをやっていくというのは将来的な収入増にも繋がっていくんじゃないかなと思います。そこが、ある意味で支出にあたるのかもしれませんが、必要などころにはしっかり手当をするというようなメリハリのある財政運営をしていただきたいなという風に思います。</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか、今のコメントに何かご回答がありましたらお願いいたします。</p>
<p>商工労働観光部長</p>	<p>はい、ありがとうございます商工労働観光部長です。今ありました特色のあるまちづくり、魅力のあるまちづくりという観点、非常に重要なことだと思います。</p> <p>その中で今二つお話ありました企業誘致、これに関しましては、今県と連携をさせていただいて一生懸命やっているところです。そして、佐</p>

<p>佐野委員</p>	<p>野にあります県が開発していました流通業務団地、この団地がもうほぼ空き区画がなくなったということで、今民間のディベロッパー開発業者の力を借りた中で、新たな企業誘致の種地を確保するための制度を昨年10月から始めまして、事業者による開発が整った時点で、それに対して大分市が助成金を出します。そういう形で開発を促進して、企業の誘致を進めていくというような取組をしております。</p> <p>それと移住定住に関しましては、移住者就労促進事業として東京、大阪、福岡の都市部で行われる移住説明会に年10数回参加しております。この中で、大分に移住すると何のメリットがあるか、大分市は働き場所があります、こんな仕事がありますということを産業人財センターなどと連携しながら、提示して、企業さんの情報なども出しながら進めております。この中で当然、福祉のこと教育のこと医療環境のことをすべて全体的に取りまとめた移住ガイドブックというのを作って、その移住説明会で大分市への移住を漠然と考える方に対して説明しております。このようなことをここ数年やってきた結果、県内の移住者の数として、大分市がナンバーワンになるという実績が令和4年度の実績として上がってきております。このような企業誘致のこと、そして移住定住施策のことを含めて、どうしても全国的に見たときに、パイの取り合いという形にはなってしまうんですが、そういう中で大分市が脱落することのないように取組をしっかりと進めていきたいと考えております。以上です。</p> <p>色々施策を打っておられるということがよくわかりました。移住ガイドブックにしても、やはり先ほどおっしゃったように、地域間競争・都市間競争というのが激しい中で、大分を選んでもらうところややっぱり重要になってくると思います。選んでもらう時に、やはり大分はこういう街だっていう、大分市のブランドとか、独自性っていうものをしっかりと打ち出してほしい。例えば移住ガイドブックにしても、大分市の移住ガイドブックではなくて、そこに、ワードとして、またこれからの大分市を表す一言があるだけで、大分市がこんな町なんだっていうような、まず掴みの部分で、皆さんに興味を持ってもらえるようなそういう効果もあると思うんです。ですから大分はこういう町なんだという独自性がある街づくりというのは、企業誘致にしても、町に元気がなかったら、にぎわいのない町だったら来ません。ですので、その町全体の大分市のブランディングというところもしっかり考えていただければなと思います。</p>
-------------	--

<p>渡邊委員長</p>	<p>どうもありがとうございました。では、そろそろ時間も来ておりますのでいったんここで切らせてください。本当に貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>まず小澤委員からですが、外部の方へのご説明ということで、何が問題で何をこれから考えていかないといけないのかが明確に出るような形でのご提示をお願いできればということであったかと思います。それに合わせて、歳入の部分、収入をいかに増やしていくかということで、国ですとか県との関係性の進化というか、深めていくということで河部委員の方からも少しお墨付きをいただいたところもあるかと思います。それから地場企業の積極的な活用ということ、大分が選ばれるまちづくりとして相対的な力を出して行ってくださいということ、ハッシュタグで何か言葉が出た時に、大分を選んでくれるような、そういう独自性を出してくださいということがあったと思います。</p> <p>ニーズのくみ取りのところではチャットGPTなどを含めて新しい技術の活用もということで、ご意見があったかと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。</p> <p>それでは次に進みます。議題の4でございますが、行政評価制度の見直しにつきまして、事務局からご説明をお願い申し上げます。</p>
<p>行政改革推進室長</p>	<p>では、行政評価制度の見直しにつきましてご説明させていただきます。右肩に資料③と書かれた資料になります。よろしく申し上げます。</p> <p>本市では大分市総合計画の政策体系に基づきまして、社会福祉の充実などの19の政策、それから地域福祉の推進などの42の施策を掲げておりまして、当該施策を実現するための事務事業が1500ぐらいございます。こうした中、政策・施策評価として、施策ごとに設定をしております評価指標の達成度を踏まえまして、改善すべき課題や今後の施策展開について、評価を行っているところでございます。同時に、事務事業評価としまして各事務事業につきましても個別に評価を行っております。</p> <p>次に2枚目をご覧ください。現在の評価のフローになりますけれども、内部評価としまして、各担当課、担当部局において一次評価を行った後、内部検討チームで整理集約を行った上で、二次評価として、市長トップとした総合経営会議で審議をし、その後、第2回行政評価・行政改革推進委員会におきまして、ご意見をお伺いしております。その後、予算案の作成、議会での予算提出という流れになっております。</p> <p>次に3枚目の資料になりますのでご覧ください。こちらは現在使用し</p>

	<p>ております事務事業評価の個票でございます、事業の目的、それから活動内容、評価指標、事業費、財源内訳、個別評価としての予算の方向性、今後の改革案、予想される課題などを記載することとしておりますが、実際に評価する上で評価指標がないものがあったり、成果や課題の記載がちょっと不十分なものがあったりするなど、課題として感じているところでございます。</p> <p>次に4枚目の資料をご覧ください。こちらは昨年度実際に使用した政策・施策評価の総括表になりますけれども、左から政策・施策・評価指標とありまして、例えば2番目の施策の子ども・子育て支援の充実であれば、評価指標として保育施設利用待機児童数、それから放課後児童クラブを利用できなかった児童、大分市子育て支援サイト「n a a n a」のアクセス数、3歳児健診でのむし歯の保有率という指標を設定しております。それぞれの指標の達成度を評価し、右の分析評価の欄で評価、さらに今後の施策展開というところで記載をさせていただいております。政策・政策評価につきましては、主に評価指標に対する分析を行っておりますが、指標そのものが施策全体を包括するものとなっていないケースというのがございまして、個々の事務事業との連動性に少し欠ける部分があるというところが課題の一つと考えております。</p> <p>それでは5枚目の資料をご覧ください。行政評価制度の再構築というところになってございまして、まず現状としまして先ほども申し上げました通り、大分市総合計画の政策体系に基づき、政策・施策評価、事務事業評価、指定管理者制度導入施設評価などを行っているところでございまして、内部評価として、一次評価、二次評価を経まして、外部評価として、本委員会にて評価をいただいております。</p> <p>次に2の課題のところになりますけれども、政策・施策評価におきまして先ほど申しました指標の進捗状況を分析評価していますが、指標そのものが、施策全体を包括するものとなっていない例がありまして、評価の内容がどうしても偏ってしまうといったところがありますことと、指標そのものが、例えば小中学校のトイレの洋式化率などで、活動指標となっているものをというものがございまして、客観的な評価とはちょっと言えないのではないかとこのところもございまして、個々の事務事業の施策に対する貢献度ということが明確ではないため、事務事業の見直し、それから予算の反映に繋がりにくいという状況であること、それから事務事業数が多いために、個々の事務事業の分析が行き届いていないところ、あるいは事務事業評価の記載内容について少しわかりづらい部分があるといったところなどが挙げられます。</p>
--	---

	<p>次の資料をご覧いただければと思います。行政評価制度の見直しのポイントとして、包括的な成果指標の設定によって、政策・施策評価を行うといったところ、事務事業の分析評価を充実させるというところ、施策に対する事務事業の貢献度を評価できるようにするというところがポイントであるという風に考えております。今後の見直し案といたしまして、施策全体を包括的に評価できる成果指標の設定に努める必要があるというところと、事務事業評価につきましても、可能な限り活動指標、成果指標を設定しまして客観的に評価ができるようにすること、見直し対象事業のうち特に必要と思われるものについては、外部評価をいただくということで、全事務事業のうち、1年で重点的に評価分析する事業を全体の4分の1として、4年で1サイクルとなるようにし、あるいは裁量の余地のない法定受託事務などについては評価の対象外とするといったようなこと、事務事業評価の公表につきましては事業の成果や課題等が明確になるような様式の見直しを行う必要があるんじゃないかというところを、今後の見直し案として現在考えているところでございます。説明は以上でございます。</p>
渡邊委員長	<p>ありがとうございました。質問ですが、今お話をしてくださった見直し方法が適正かどうかということをお皆さんの意見を聞くということによってよろしいでしょうか。</p>
行政改革推進室長	<p>ご意見をいただければと思います。もちろん全体を通じての意見もあればよろしく申し上げます</p>
渡邊委員長	<p>はい、ありがとうございます。今ご説明のありました、評価制度の見直しについて、皆様方からご意見ですとか、ご質問ありましたらお願いいたします。</p>
石井委員	<p>石井でございます。色々と説明ありがとうございます。この点非常に私、大事な点だと思っております。外部評価は私どもの外部委員としてこの委員会で何をするかというところの問題であると思っております。今までの議論を踏まえ少し端的に振り返る必要があるのかなというふうに感じております。私の記憶が正しければ、行革法ができたのが確か、今から17～18年前、平成17年とか18年にPFI法とか、その辺のところ等を踏まえてできたと思います。それで総務省さんが一生懸命こう進められて、各自治体も行革に取り組んでいった。それを今、総務省</p>

さんの方では、全国のアンケートといたしますか取りまとめをして、全国に一律で何をしているとかいうのをホームページ上で公表するというところもあろうかと思えます。そしてその流れの中で、各自治体の中で行革に取り組み、総務省のプログラムのなものと、それから独自のものを取り組んで、そしてそれで内部評価を実施し、大分市のように外部評価をしているところもあればないところもあります。我々外部委員はこの進捗状況の確認をし、そしてその実施項目・実施方法、それから評価方法等については専門的意見を述べさせていただきますという立て付けになっていると思っています。まずは行革がなぜ必要なのかというところについて、もう一度振り返る必要があるのかなというふうに思っております。この点、経団連が2015～6年に出した文書があるんですけども、行革改革のあり方に関する論点整理というのは経団連が出しております。その中で、現状認識、背景というのを明確に書いております。ちょっと冒頭だけ読ませていただきます。

「人口減少、高齢化や地域経済の疲弊等が進む中、厳しい財政制約のもとでの行政サービスの提供範囲や、内容等のあり方を見直す必要性が高まっている。すべての公的サービスを行政に求めることが難しくなっており、国民、企業等が主体的に参画し社会的課題解決に向けて協働することへの時代の要請を強く」という風なことが最初に書かれています。先ほど谷矢さんの話でもありました公的不動産の活用のところ、統計を取ったこともあると思いますが、各自治体さんがマイナスになっているということは事実として、これはもう認識をせざるをえないかと。そうした中で、先ほどの資料が出ているでしょうということなんですけど、そうした中で、行革の評価をどうしていくかというところ、それを今ここで出しているんですが、その行革の効果は今度何かということで見てもいかなきゃいけないと思います。効果というのは大きく三つに分けられると。一つは市民の利便性向上というのが言われていますし、一つは政策効果を期待し得られたその成果という風に言われていますし、一つは財政的効果という風に言われているということだと思います。その効果のところを目指していく、すなわちこの評価が予算編成とか、政策的な形成プロセスにいかに関与されているかというところを見るのが、やっぱり我々の役目だろうなという風に思っています。そのときに行政ガバナンスという言葉があると思いますが経団連の中でも外部評価をこの行政ガバナンスを強化に結びつけていくんだというようなこともやっぱり書かれております。私もそういう風に思っていますので、例えばこの中で、今絞るという話がございます。絞るのは大変結構なこ

	<p>とだと思えますし、実際今その評価の中で課題が出てきているということ認識されてそれをいかに改善していくかという議論されているので、それは大変すばらしいことだと思えます。ただ、外部評価のところ、項目の絞り方とか、絞ることによってガバナンスのところは緩くならないようにということについては、外部委員の方からもよろしくお願ひしたいというところでございまして、おそらくその辺については、いろんなことを内部的な強化みたいなことを考えられてると思えますけれども、その辺のところの意見とともに、今のお考えを少し伺いできればなという。ちょっと長くなりましたけどすいませんよろしくお願ひします。</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>ありがとうございます。ご回答をお願いいたします。</p>
<p>行政改革推進室長</p>	<p>今、事務事業数が1500事業ある中で、内部評価を行っておりまして、その内部評価につきましても担当ごとにむらがあるところもありますし、そのチェックが働きにくいところもあります。ターゲットを絞って集中的にやりたいところが今回のねらいの一つでございまして。ただ、これまでの内部評価自体を低下させるつもりはなく、これからさらに充実をさせていくといったところで考えております。それに加えて、これまで事務事業評価につきましては外部評価を行っておりませんので、特に必要な市民目線、あるいは市民感覚で見ていただく中で、専門的な知識や知見をいただく本委員会を活用させていただくとともに、行政の説明責任を果たしながら進めていきたいと思っております。しかし、会議の回数や時間には限りがありますので、どうしても多くの事業を取り扱うのは難しいかとは思っておりまして、国の行政事業レビューのやり方ですとか他の自治体の行政評価のやり方なども参考にしながら、可能な範囲で事業を評価していただければという風に思っております。以上です。</p>
<p>石井委員</p>	<p>安心しました。それと先ほどから表現の仕方、また別の問題ありますけれども、表現の仕方等々出ておりますけど、市民アンケートの件があったと思えます。市長も先ほど言われていましたけど、ホームページ、いわゆるこう示してくれって私ちょっとみたんですけども、詳細なものが大分市のホームページの中に市民アンケート出てます、こんなアンケートをとりました、こんな回答でしたっていうのは、全部出てますんで。そこをここに乘っけていただければよろしいかというかわかりやすい</p>

	<p>かなという風に思いますので、その見せ方というかアプローチの仕方のところはちょっと工夫をしていただくとありがたいかなというところですね。聞いている内容については、ちょっと改善したほうがいいかなという風なところはございますのでそこはまた別のところで議論させていただければと思っております。以上です。</p>
行政改革推進室長	承知しました。
渡邊委員長	<p>ありがとうございました。具体的でも抽象的でも構いませんので、委員の皆様からご意見をいただくとありがたいです。山城委員よろしくお願いたします。</p>
山城委員	<p>いろいろなご意見ありがとうございます。今、石井副委員長からもあったんですけども、これを作成することが何か目的のような形になっていて、例えばこれをエクセル表で作ってそれを埋めていくのが精一杯で、その評価までなかなか繋がってない、繋がるのはなかなか難しいということが多分あるんじゃないかなと思っております。こういうのって大体、多分今見るとエクセル形式のような形を取りまとめるのに相当時間がかかっているんじゃないかなと想像するんですけども、こういったところで例えばデータベースとか、情報の効率化とか、職員の方の業務の改善とか、そういったところに繋がるともっと評価のところに集中できるのではないかなと思うんですけどもいかがでしょうか。</p>
渡邊委員長	ご回答をお願いいたします。
行政改革推進室長	<p>はい。ありがとうございます。確かに全国的にも評価疲れという言葉が使われていて、事業評価のアプローチに対してかなりのエネルギーを使うということが指摘されているところでございます。予算編成も含めて、トータルで予算を作る、評価をする、決算資料を作るなど、いろいろな場面で多くの作業を職員がしておりますので、トータルで、効率化が図られるような仕組みに行政評価においてもしていきたいというふうに思っております。今このエクセルシートの個票もしかり、他との連動性もしかり、色々なところにつながられて、かつ、多くの作業が発生しないような仕組みにしたいと思っております。ありがとうございます。</p>
山城委員	お願いたします。

渡邊委員長	よろしいですか。ありがとうございます。甲斐委員お願いいたします。
甲斐委員	<p>ご説明ありがとうございます。</p> <p>事務事業評価のところの両括弧2のところなんです、可能な限り活動指標と成果指標を設定するというので、この指標の設定って非常に難しく、担当者が悩むところで、それが施策評価まで繋がっているかどうかという観点で考えると、とても悩むところだと思います。それを全部の表、事務事業に載せていくということについては、かなりトレーニングが必要なんではないかなと思っているんですけども、それについて何かお考えございましたら教えてください。</p>
行政改革推進室長	<p>指標の設定については、非常に難しく、こちらも悩んでいるところでございます、これも全国の自治体が悩んでいるポイントでもございます。そのため、指標の設定の仕方やポイントを示している資料を作っている自治体とかもありますので、そういったところも参考になればと思っております、他市の事例を参考にしながら、本市でも指標の設定の仕方を研究して参りたいと思っております。また、職員が困らないようにしたいなというふうには考えております。事務事業の中には、アウトカム指標、成果指標が設定しづらいものがございますので、そういったところがどうしても活動指標にならざるを得ないというところが出てくるかと思いますが、成果指標が取れるところはですね、可能な限りとって行きたいという風に考えております。以上です。</p>
甲斐委員	<p>ありがとうございます。職員の皆さん大変だと思いますのでそういうところお願いしたいと思えます。もし指標が困難な場合、本当にこの事業をすべきなのかという観点で、考えられることも職員の皆さんと共有なさったらどうかという風にも思えます。以上です。よろしく申し上げます。</p>
渡邊委員長	<p>ありがとうございます。他にはございますか。得丸委員お願いします。</p>
得丸委員	<p>評価するうえで、分割して分析しなければならないと思いますが、分割したうえでお互いに壁を乗り越えたところが一番問題じゃないかなと思うんですね、そういう評価の仕方が今後考えられるんですけど、例えば</p>

	<p>子供と高齢者なんていうのはある意味、切り離せない、今後の福祉、それをもちろん分割して評価したと同時に、そのパーツを合体したような評価ができればよいと思います。地域包括という項目に子供、高齢者、障がい者の施策を含めた評価の仕方などを検討していただければと思います。</p>
渡邊委員長	<p>ご回答をお願いいたします。</p>
行政改革推進室長	<p>現在の評価の仕方として、政策の評価をして、施策の評価をして事務事業の評価をして、それぞれ大きなものから小さなものまでを降りていくような評価の仕方を今とっているところですがけれども、それぞれの政策を実現するための事務事業がどういう風に繋がっているのかということも、評価のポイントだと思っております。あるいは、他の政策との関連も踏まえまして、横断的な関わりがあるものにつきましてはそういったところも観点として踏まえて評価できればと思っております。ありがとうございます。</p>
渡邊委員長	<p>大変だと思いますが、どうもありがとうございます。</p>
高橋委員	<p>ご説明ありがとうございます。やはり皆さんと同じように評価のやり方についてなんです、ここに書いてあります4番の(1)(2)、課題点とそれに対する対応として、こういう見直しをしますというのはおっしゃるとおりだと思いますが、これをどういう風に可視化してどんな指標を設定するかみたいなことが一番重要で難しいところだと思うんですがこのスケジュールとか進行表見ると、実際、我々がこれを目にするのもう評価が終わって、結果として出てきたものをみてこの政策がうまくいったかっていうのを実際に評価する段にならないとわからないと思うんですよね。この評価の仕方と指標じゃわかりにくいよってというのが反映されるのは一年後になってしまうと思うのですが、そのあたりのタイムスケジュールについてはどのようにお考えでしょうか。</p>
行政改革推進室長	<p>ありがとうございます。評価のタイミングについては、会議の回数にも影響する可能性があるんですけども、来年度もし可能であれば外部評価の専門部会という形で評価をいただき、評価指標のあり方ですとか、課題があればそういったところのご指摘もいただきながら、全体会の中で、専門部会のご意見を反映させたものを提案させていただいて、さら</p>

	<p>にご意見をいただき、最終的にフィードバックができればという風に思っております。まだ来年度のスケジュールについては現在決まっておりませんが、内容としましてはそういったことで考えております。以上です。</p>
高橋委員	<p>はい。そうですね。今回、見直しをしていくタイミングで、例えばこういう風に見直そうと思っているみたいなことを共有いただくだけでもフィードバックできるかなと思います。</p>
行政改革推進室長	<p>ありがとうございます、検討いたします。</p>
渡邊委員長	<p>今日のご意見なども含めて変更点ですとか、目に見える形でお願いできるとありがたいのですが、スケジュール的には大丈夫ですか。</p>
行政改革推進室長	<p>また2回目の本委員会の中でご提案させていただける部分があるかなと思っておりますので、その際はぜひご意見をいただければと思っております。ありがとうございます。</p>
渡邊委員長	<p>第2回目は秋に予定されております。</p>
河部委員	<p>行政の立場から、本県では、長期計画のプランの見直しを行っておりまして、目標指標のマニュアルというのがございます。評価するにあたり目標設定の仕方が一番大変だなということで、全庁で共有して進めるよう考えているところです。予算を編成する前の作業というところではあるんですけども、全庁での意識の共有ということも含めてマニュアル等を活用する場合は共有したいと思いますのでよろしく願いいたします。以上です。</p>
渡邊委員長	<p>以上、コメントございますか。</p>
行政改革推進室長	<p>県の取組については、非常に参考になりますので、またぜひ教えていただければと思っております。</p>
利光委員	<p>事前に質問を挙げていましたので、端的に意見として要望させていただきたいと思います。</p> <p>先ほどの行政評価のシートの中にもありましたワークライフバランス</p>

	<p>の労働時間の関係について縮減を図るといった観点で行った時に、一つ一つの事業に対する労働量、また労働力こういった見方をやはり観点の一つとして、いれていくことによって、事前に事業計画する段階でしっかりと人員とか労働量を確保していくという考え方が成り立つと思っています。シートの中に時間外の勤務の実績は含まれていたんですが、そういった観点を何らかの形でより具体的に把握できるような方法をまた今後ご検討いただければと思いますので要望という形で発言させていただきます。以上です。</p>
渡邊委員長	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか。</p>
行政改革推進室長	<p>人員配置につきましては、人事課のほうで所属長からヒアリングをしながら必要な人員を配置させてもらっていると思います。その中で時間外勤務の縮減ですとか、働き方改革の観点等も踏まえまして、配置をしているという認識です。一方、事務事業評価の個票の中で把握をしております人件費の積算につきましても、今後の事務事業評価の個票の見直しの中で、よりよい人役の算出の仕方などを検討させていただきながら見直しを行って参りたいという風に考えております。以上です。</p>
渡邊委員長	<p>ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。それでは張委員お願いいたします。</p>
張委員	<p>1500事業があるということで、なかなか評価の量とか膨大な工夫が必要だと思います。これは実現性があるかどうかまだ確定してないんですが、もしかしたらその評価の指標の選定と設定する際に、例えば市民レベルでもわかりやすい指標設定することによって、例えばその1500の事業を4分の1に分けて4年で1サイクルじゃなくて、実際にこの施設とかその事業を使用している市民に評価をしてもらうとか、有識者とか専門家とかというところでは評価できる方とかもいらっしゃるの、そういう方に評価してもらう方法などがあると思います。類似した事業体も、公募評価を行うとあっていうところで、いわゆる台湾の話になるんですけども、フェイクニュースに対する対策として、一般の会社がしているんですけどまずはAIで判断をして、AIで判断できないものを市民に協力してもらうといういわゆる市民への分担をもらって、1500事業をちょっとわけてもらうっていうところで、こういうところでも問題意識や主体意識の醸成とかにも繋がると思うので、そう</p>

	<p>した取組になったらいいなと思っております。</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>はい。いかがでしょうか。</p>
<p>行政改革推進室長</p>	<p>ありがとうございます。個々の成果指標の中で、今設定ができていないものについて、アウトカムの指標を設定して、例えば市民の利用者の満足度ですとか、利用のしづらさなどを調査できるような仕組みができるといいなと思っております、加えまして市民アンケートが、随時に取りれるような仕組みづくりというところも必要だろうと思っておりますので、またそういったところも検討させていただきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>ありがとうございます。そろそろお時間もきているところではありますので、一旦ここでこの議論を止めさせていただければと思います。本当にどうもありがとうございました。</p> <p>それでは最後に大分市行政評価・行政改革推進委員会指定管理者評価部会の部会委員の指名につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>行政改革推進室長</p>	<p>はい。では大分市行政評価・行政改革推進委員会指定管理者評価部会の部会委員の指名について説明させていただきます。</p> <p>大分市行政評価・行政改革推進委員会設置要綱第7条の規定に基づきまして、本委員会には部会として指定管理者評価部会を設けております。大分市行政評価・行政改革推進委員会指定管理者評価部会設置要綱第三条の規定では、本委員会に属する委員のうちから委員長が指名するものが部会委員となることとなっておりますので、指名につきまして、渡邊委員長をお願いをしたいと思っております。</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>はい。了解いたしました。それでは本委員会から石井委員に指定管理者評価部会の部会委員への就任をお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>(異議なし)</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>では、石井委員よろしく願いいたします。</p> <p>先ほど3番目の議論のところで申しそびれておりましたが、委員の皆様</p>

	<p>から今回の評価の内容に関して、評価そのものや評価の仕方について、なぜ行革の評価が必要なのかというご意見等がありましたのでそこを含めてご対応いただければと思います。加えて、次回の委員会でなるべく今日出たご意見を反映していただけるような形での資料のご提供とご説明をしていただければと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日は熱心なご議論やご意見をいただきましてありがとうございました。そもそもこの2時間でこれだけの議論をすることは不可能ではあったのですが、それを承知で皆様方にご参加、貴重なご意見をいただいたので、反映をしていただければと思います。</p> <p>目的はやはり大分市がもっともっと活性化し、もっともっと良くなるということが非常に大事だと思います。住みよい大分市になること、委員からのご指摘にもありましたように魅力ある大分市づくりということにぜひ反映をしていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>拙い司会で大変申し訳ございませんでした。これをもちましてすべての議事を終了いたします。それでは進行を事務局にお返し申し上げます。</p>
行政改革推進室長	<p>渡邊委員長ありがとうございました。今回いただきましたご意見につきまして、また次回のほうに反映させていただきたいと思います。</p> <p>スケジュールにつきまして、連絡させていただきます。次回、第2回の大分市行政評価・行政改革推進委員会につきましては、11月の10日金曜日の13時半から開催を予定しております。第2回の会議につきましては、行政評価につきましてご審議をいただきたいと思っております。場所や議事内容等の調査につきましては、また改めまして事前にご連絡をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
企画部審議監	<p>長時間のご議論ありがとうございました。それではこれもちまして、令和5年度第1回大分市行政評価・行政改革推進委員会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。</p>